ふれあい

NO.　３４０
２０２１．１０．１５

社会福祉法人　大阪市手をつなぐ育成会
大阪市天王寺区東高津町 12-10
大阪市立社会福祉センターB１F
発行責任者　小泉　いと子
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
http://city-osaka-ikuseikai.or.jp

定価 10 円

大阪市手をつなぐ育成会　法人理念

障がいのある人が　安心して　心豊かに　すごせるように

～障がい者の特質を理解し、必要な配慮と支援が自然に行われる社会を目指して～

理事長　小泉　いと子

日頃は、育成会活動にご支援頂きましてありがとうございます。

先日「緊急事態宣言」並びに「まん延防止等重点措置」が一斉に解除となり、街の賑わいも少しずつ戻りつつあるように感じます。

大きな打撃を受けた飲食店や観光業など、少しでも消費を増やして経済を回していかないといけないという気持ちもある反面、ぶり返しで第６波がまた来るのではないかという不安で、まだまだ葛藤する日々が続きそうです。

必要以上に恐れることなく、しかし必要な対策は継続しつつ、新型コロナと共生していくしかないかなと感じています。

今回のコロナ禍の中で、入院やワクチン接種など、障がいのある方への医療的な支援における課題や問題点が、多くの実例をもって具体化・可視化されてきたように思います。

そんな中、毎日新聞で「介助可視化で不安解消」という記事が掲載されていましたので、内容を紹介させていただきます。

『発達障がい者や知的障がい者の家族の中には、新型コロナウイルスのワクチンを本人にどう接種してもらえばいいのか悩んでいる人が多くおられます。

本人が接種の意味や手順が分からず、気持ちが乗らなくて時間通り会場に行けなかったり、注射器の針を見てパニックになってしまったりする可能性があるからです。

発達障がいや知的障がいのある人の中には、ワクチンを接種する意味や手順を理解できない人もいます。

また、痛みに敏感で、感情を抑えられずにじっとしていられないこともあります。言葉や文字よりも視覚で理解する方が得意な傾向があるため、接種の流れをイラストや写真など、目で見て分かりやすく説明することが効果的な場合が多いです。

自閉症スペクトラム症（ＡＳＤ）の当事者の家族らでつくる「埼玉県自閉症協会」では、ワクチン接種の流れを示したイラストの表をホームページで公開されています。』

「大阪市手をつなぐ育成会」でも１回目の接種が始まった段階で、スムーズに接種できるように、イラストを使用した視覚的に分かりやすい手順書を作成し、全国の育成会とも共有しました。

こういった試みがより広く周知され、活用されることを期待しています。

また、障がい者専用の接種会場を設ける自治体もあります。東大阪市では、マスクを付けられないなどの事情で一般の集団接種会場やかかりつけつけ医での接種が難しい障がい者を対象に、市立障害児者支援センターで集団接種を実施されています。

接種には、普段から障がい者の治療や支援にあたる医師や看護師が携わっておられるそうです。担当者は「落ち着いた環境で安心して接種できるようにしたい」とインタビューに答えられていました。

また、相模原市などでも、障がい者を対象とした臨時の接種会場を設けているとのことです。

このような取り組みを目にすると、地域ごとの対応に格差が出てしまっているように感じます。障がい者の特質を理解し、必要な配慮と支援が自然に行われる、そんな社会になるように、これからも啓発活動を進めていきたいと思います。

このふれあいは令和２年 12 月に実施されたＮＨＫ歳末たすけあい配分金により作成しています。